

■大学・学部と附属学校との共同研究■

山形大学地域教育文化学部・大学院教育実践研究科と附属学校園との共同研究について

～県教委と連携した探究型学習の推進とカリキュラム・マネジメントの取組～

中井 義時

1. はじめに～探究型学習のスタートは幼児期の「遊び込む」ことから～

山形大学附属学校は、山形県教育委員会の「探究型学習推進プロジェクト事業」推進協力校になっており、大学と連携しながら先進的且つ、地域の学校のモデルとなる探究型学習の研究に取り組んでいる。

探究型学習の原点を、目の前の課題に夢中になって取り組む、まさに「遊び込む」姿にこそ見ることができると考え、幼小中連続した学びの在り方と目標具現化のカリキュラムを開発しながら研究を進めている。

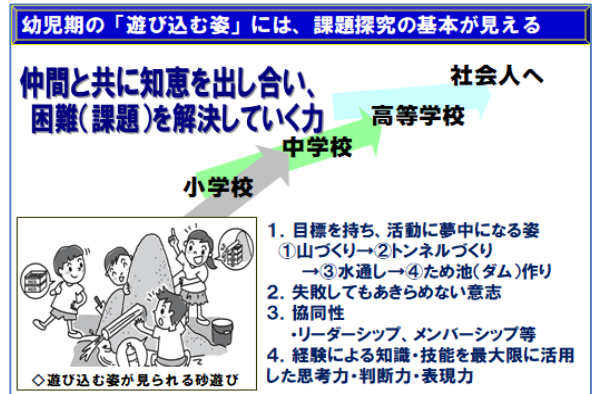


図1 課題探究の基礎となる「遊び込む姿」(作成 中井)

2. すべての教育活動の基盤となる学校経営グランドデザイン

山形大学附属学校園では、山形大学の教育経営担当の教授等の助言を受けながら、通常の教育活動から教員の養成・研修、先進的な研究活動を含め、各校園長が「学校経営のグランドデザイン」を作成し、目標具現化に努めている。このグランドデザインは附属学校園の経営の基本となるものであり、研究もここからスタートする。学長はじめ執行部役員にプレゼンテーションを実施し、協議しながら進めている。下図は附属幼稚園のものである。(概要を中心に詳細等は省略)

令和元年度 山形大学附属幼稚園 重点目標具現化の「学校経営グランドデザイン」 (詳細省略)																																		
<p>◇養成から研修まで、教員を育てる学校</p> <p>○「山形県教員『指標』」をもとに、幼児期の教育と児童期以降の教育のつながりについて理解を深め、子ども主体の教育を推進できる教師の育成に努める。</p>	<p>◇地域のモデルとなる教育・研究を進める園</p> <p>○幼稚園教育要領が示す保育を实践・発信するとともに、これからの社会に求められる幼児教育の在り方について全附連4園と連携しながら研究に取り組み、提案していく。</p>	<p>◇附属学校園の子どもを健全に育てる学校</p> <p>○教育目標「心豊かでたくましい子どもの育成」を掲げ、明るく元気な子ども・やさしくかしこい子ども・活動を創りだす子どもを育てる。</p>																																
<p>1. 山形大学附属幼稚園の特色 小学校との接続を踏まえた幼児教育を实践し、五感を働かせ、未来につながる心身を育む「食育」を推進する</p>																																		
<p>◇重点目標の設定理由 (詳細 省略)</p>	<p>2. 今年度の重点目標</p> <p>①「遊び込む」子どもの姿と保育者の援助について研究を深め、小学校以降の「探究する心」の接続に必要な環境を考える。</p> <p>②子どもが五感を使って地域の食材と触れ合う機会を大切に、感じたことを表現できるようにする。</p>	<p>◇重点目標の評価検証方法 (詳細 省略)</p>																																
<p>◇園の改革 (詳細省略)</p> <p>○変形労働時間の設定</p> <p>○保育外業務における効率化</p> <p>○働きがいの共有</p>	<p>7. 危機管理 (詳細省略)</p> <p>◇危機及び安全管理マニュアルの活用</p> <p>◇保護者と連携した安全指導</p> <p>◇安全管理の徹底</p> <p>◇不祥事防止の取組</p>	<p>3. 重点目標達成の具体的な取組</p> <table border="1"> <tr> <th>重点目標1</th> <th>重点目標2</th> </tr> <tr> <td>環境の充実(教員研修・教材環境・自然環境・食環境等)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・遊びの保育デザインの更新</td> <td>・食育カレンダー作成と実践</td> </tr> <tr> <td>・小学校との合同事例検討会</td> <td>・大学教授による講話</td> </tr> <tr> <td>・文部科学省委託研究のまとめ</td> <td>・保護者と連携した「食」活動</td> </tr> </table> <p>4. 重点目標達成に向けた取組を教員一人一人が具現化する方法</p> <p>①遊びの保育デザインに基づくP D C A</p> <p>・「期」のねらいと子供の実態から、週案を作成し、記録する。U T C等で、見直しを図り、改善しながらすめる。</p> <p>②学級カリキュラム及び食表に基づくP D C A</p> <p>・学級カリキュラムを作成し、実践をもとに更新をはかっていく。</p> <p>・9月と2月に自己評価を行い、成果と課題を明確にする。園長と面談後、次年度のカリキュラム及び全体の計画に反映させる。</p>	重点目標1	重点目標2	環境の充実(教員研修・教材環境・自然環境・食環境等)		・遊びの保育デザインの更新	・食育カレンダー作成と実践	・小学校との合同事例検討会	・大学教授による講話	・文部科学省委託研究のまとめ	・保護者と連携した「食」活動	<p>8. 研究及び食育 (詳細省略)</p> <p>(1) 研究の進め方</p> <p>○事例検討会</p> <p>○研究協議会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲにおける発表</p> <p>○「遊びと学びフォーラム」による発信</p> <p>○専門分野の講師を招聘しての現職教育</p> <p>(2) 「食育」の進め方</p> <p>○食育カリキュラムの作成</p> <p>○大学との連携活動(おやつ提供・食味指導など)</p> <p>○保護者との連携活動(郷土カレンダー料理)</p>	<p>◇地域貢献 (詳細省略)</p> <p>○「遊びと学びフォーラム」を開催</p> <p>○幼児教育と関係者との共通理解</p> <p>○年に3回園児を対象に「すくすく広場」を開催</p>																				
重点目標1	重点目標2																																	
環境の充実(教員研修・教材環境・自然環境・食環境等)																																		
・遊びの保育デザインの更新	・食育カレンダー作成と実践																																	
・小学校との合同事例検討会	・大学教授による講話																																	
・文部科学省委託研究のまとめ	・保護者と連携した「食」活動																																	
<p>9. 教員一人一人が授業準備や教材づくり、児童生徒の諸活動・相談等に専念できるなどの教員の教育活動を支援する学校経営活動</p> <table border="1"> <tr> <th>① 組織・運営の改善</th> <th>② 教育課程の改善</th> <th>③ 家庭・地域との連携</th> <th>④ 担任サポート</th> <th>⑤ 人材育成</th> </tr> <tr> <td>・細かな変形労働時間を設定する。</td> <td>・家庭訪問から個別面談への変更</td> <td>・P T Aとの連携強化</td> <td>・園長による「あくしゅカフェ」の開催</td> <td>・非常勤講師や支援員との打ち合わせの時間の確保</td> </tr> <tr> <td>・公開研究会から「遊びと学びフォーラム」へ変更</td> <td>・春の園外行事の廃止</td> <td>・役員活動の見直しと行事の自主的運営</td> <td>・子育てアドバイザーも同席～</td> <td>・小学校研究会や全附連研究会への積極的参加</td> </tr> <tr> <td>・事務職員及びP T A事務との連携</td> <td>・創立記念式の持ち方の変更</td> <td>・危機管理意識の向上に向けた取組</td> <td>・養護教諭による「あくしゅ相談」</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>→来賓等の出席なし・通常日課</td> <td>・サポーターの募集</td> <td>・特別支援コーディネータによる、支援が必要な幼児へのアドバイス・保護者との面談・小学校との連携</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>→斎院園後会議開始時刻の確保</td> <td>・学生ボランティアの活用</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>					① 組織・運営の改善	② 教育課程の改善	③ 家庭・地域との連携	④ 担任サポート	⑤ 人材育成	・細かな変形労働時間を設定する。	・家庭訪問から個別面談への変更	・P T Aとの連携強化	・園長による「あくしゅカフェ」の開催	・非常勤講師や支援員との打ち合わせの時間の確保	・公開研究会から「遊びと学びフォーラム」へ変更	・春の園外行事の廃止	・役員活動の見直しと行事の自主的運営	・子育てアドバイザーも同席～	・小学校研究会や全附連研究会への積極的参加	・事務職員及びP T A事務との連携	・創立記念式の持ち方の変更	・危機管理意識の向上に向けた取組	・養護教諭による「あくしゅ相談」			→来賓等の出席なし・通常日課	・サポーターの募集	・特別支援コーディネータによる、支援が必要な幼児へのアドバイス・保護者との面談・小学校との連携			→斎院園後会議開始時刻の確保	・学生ボランティアの活用		
① 組織・運営の改善	② 教育課程の改善	③ 家庭・地域との連携	④ 担任サポート	⑤ 人材育成																														
・細かな変形労働時間を設定する。	・家庭訪問から個別面談への変更	・P T Aとの連携強化	・園長による「あくしゅカフェ」の開催	・非常勤講師や支援員との打ち合わせの時間の確保																														
・公開研究会から「遊びと学びフォーラム」へ変更	・春の園外行事の廃止	・役員活動の見直しと行事の自主的運営	・子育てアドバイザーも同席～	・小学校研究会や全附連研究会への積極的参加																														
・事務職員及びP T A事務との連携	・創立記念式の持ち方の変更	・危機管理意識の向上に向けた取組	・養護教諭による「あくしゅ相談」																															
	→来賓等の出席なし・通常日課	・サポーターの募集	・特別支援コーディネータによる、支援が必要な幼児へのアドバイス・保護者との面談・小学校との連携																															
	→斎院園後会議開始時刻の確保	・学生ボランティアの活用																																

図2 令和元年度 山形大学附属幼稚園 重点目標具現化の「学校経営グランドデザイン」

3. 附属幼稚園の取組：遊び込む子どもを育む保育と「遊びの保育デザイン」の作成

(1) 遊び込む子どもを育む保育

附属幼稚園では、幼児教育に精通している3名の共同研究協力者（山形大学教員）の他にも、造形や生活科、教育方法、特別支援教育に造詣の深い4名の研究者（山形大学教員）と共に、「遊び込む子どもを育む保育」を探究している。

右の写真は、興味津々に「おちやづくりを探究する」子どもと、試行錯誤を繰り返しながら目の前の課題をクリアしていく「水道管工事ごっこ」に夢中になっている子どもの状況を表したものである。このような遊びの文脈、遊びの状況とその変化を丁寧に読み取り、事例の図式化・再考察を行いながら、保育者の援助・働きかけについての考察を進めている。研究を進めるにあたっては、「遊びの読み解き方」（主体的態度・遊び課題の生成・他者との関わり・対象との関わり）の視点を持つこと、遊びのエピソードを記録・整理している「遊然草」の活用、ユートークカフェ（UTC）と呼んでいる「保育者の語り合い」を大切にしている。



写真1 おちやづくりの探究



写真2 水道管工事ごっこ

(2) 遊びの保育デザイン

附属幼稚園では保育のカリキュラム・マネジメントとして、3～5歳児を各Ⅲ期からⅣ期に分け「遊びの保育デザイン」を作成している。発達段階における遊びのテーマやねらい、幼児期の終わりまでに育てたい「10の力」、援助のポイントを参考に実践・評価し、改善を進めている。

遊びの保育デザイン（5歳児 Ⅳ期）

		月											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
期	協力してじっくり遊びに取り組み時期（Ⅳ期）	<ul style="list-style-type: none"> ・挑戦したり、工夫したりしながらじっくり取り組む。 ・相談し、協力しながら目的に向かって共に活動をする。 											
	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ◇友達と協力し合い、新しいことに挑戦しながら遊びを広げていくようになる。 ◆共通の目的に向かって共に活動をする、友達との心づなを深めていくようになる。 											
内容（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）を踏まえて	生活や活動に見通しをもち、時間を意識しながら自分達で生活をすすめていく。（健康）	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通の目的に向かい、お互いの思いを出し合いながら遊びを展開する。（人間関係・言葉） ・自分なりに目当てをもって取り組み、繰り返し挑戦しようとする。（人間関係） ・交流を通して、身近にいるいろいろな人と触れ合い、親しみを感ずる。（人間関係） ・自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、友達と共に遊びをすすめる。（人間関係） ・冬の自然に興味や関心をもち、雪や水を利用して遊ぶ。（環境） 											
	身近な事象などに触れながら試行錯誤を繰り返す中で友達の様々な考えに触れ、考え直したり新しい考えに気づいたりする。（環境・言葉）	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったことや想像したことを言葉で表現する楽しさを味わう。（言葉） ・感じたことや想像したことなどを様々な方法で表現する過程を通して、表現する喜びを味わう。（表現） ・これまでの園生活を振り返りながら、自分達の成長を感じ、小学生になることに期待をふくらませる。（表現） ・身近な人たちへ感謝の気持ちを込めて言葉で伝えたり、画内を書きいれたりする。（表現） 											
援助のポイント	◇ ① 友達と集い合えるような場の設定や環境の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の姿に刺激を受けて、自分もやってみたい、できるようになりたいという思いを高めながら、遊びを継続していく。友だちの思いに寄り添いながら教え合い、できたことを共に喜び合う。 											
	② 自分達ですすめていく喜びや満足感を味わえるような時間と場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに頑張ろうとする姿勢を育む。 ・自分達で考えたことや発見したこと、予想したことをボードに書き出したり、クラス全体の話題にしたりしていく。 											
学年・学級の活動	伝承遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象に関わり、気づきから展開していく遊び ・様々な素材や、雪や水などの冬の自然物に興味を持って関わる中で、様々なことに気づき、新たに試してみたいことが出てくる。友だちと気づいたことや考えを出し合いながら、事象の変化を楽しんだり、新たなことに気づいたりする。 											
遊び	【目的や願いをもちながら挑戦する遊び】	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に、難しいと思うことにも挑戦しようとする思いがもてるように ・友達同士で声を掛け合ったり、上手にできるコツを教え合ったりしながら遊べるような言葉掛けをしたり、場を一緒に設定したりしていく。 ・保育者も一緒に遊びに加わり、できないことを悔しがったり、できたことを喜んでいたりしながら、子どもの思いに共感していく。 ・自分なりに頑張ろうとする姿勢を育む、認めたり励ましたりしながら、やってみようという意欲を支えていく。 											
援助	＜友達と一緒に、難しいと思うことにも挑戦しようとする思いがもてるように＞	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを共有しながら、遊びをする楽しさを実感できるように ・遊びの展開に合わせて、子ども達と一緒に場の再構成や整理をして、十分に遊び込めるようにする。 ・互いの思いを出し合い、認め合いながら活動をするために問い返したりする。 ・少しずつできあがっていく喜びに共感し、みんなでやり遂げた満足感を味わえるようにする。 ・遊びの見通しを共有できるように、設計図を書いたり、途中経過を写真で表示したりする。 											

図3 令和元年度 山形大学附属幼稚園 「遊びの保育デザイン」(5歳児 Ⅳ期1～3月)

4. 附属小学校の取組：探究型学習の推進とカリキュラム・マネジメント

(1) 探究力の基礎を習得する

附属小学校では、子ども自身が問いをもち、課題解決の過程で「学びのよさ」を実感し、「これまでの学びを生かす」ことで、探究力の基礎を習得することをめざしている。

その基礎となる課題探究力の育成については、各教科等の目標や特性に応じ、大学との連携で研究を進めている。図4は、「今の自分」から「よりよい自分」に向かう子どもの問題解決の歩みを示したものであるが、次の3つの視点を追求する中で、「子どもの問題解決力」を育てている。

- 子どもの問題解決にかかわること
- 視点1…子どもが「問い」をもつ
- 視点2…子どもが「学びのよさを実感」する
- 他教科やくらしの中でも「見方・考え方」が生きて働くようになるということにかかわること
- 視点3…子どもが「これまでの学び」を生かす

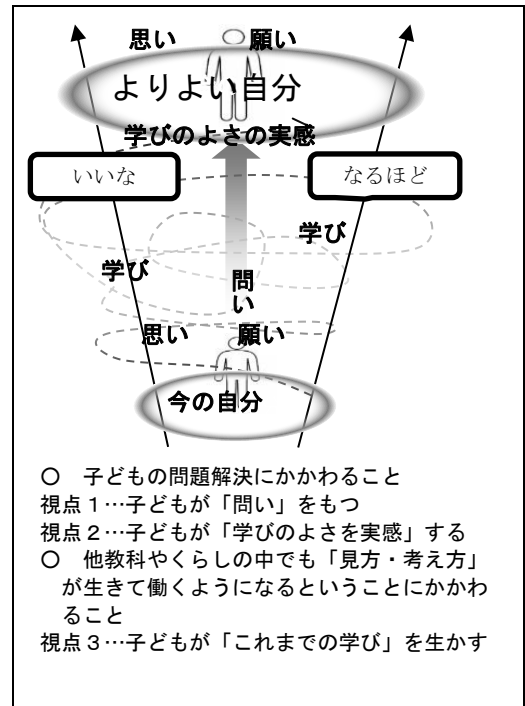


図4 探究力の基礎を育む子どもの問題解決

(2) 探究的な学びを核にした学級カリキュラムの創造と実践

右の写真は、附属小学校公開研究会（2018.6/22）におけるカリキュラム・マネジメントに関する対談の様子である。附属小学校N教諭の「学級カリキュラム」とその実践について、山形大学教員がカリキュラム・マネジメントの視点から価値付けしその教育効果を考察した対談である。



写真3 2018 公開研究会での対談の様子

附属小学校では、以前から教科横断的な学級カリキュラムを作成した教育実践に取り組んでおり、現在は、カリキュラム・マネジメントの視点からの見直し、改善を行っている。さらには地域の学校に普及できる「学級カリキュラム・マネジメント」の作成、進め方について、大学との共同研究に取り組んでいる。

右図4年生の年間カリキュラム・デザインのよさは、

- ① 中核に総合的な学習の時間での学習を据え、最後の総合表現活動まで探究的な学びで進めていること
- ② 小単元ごとの探究のまとめを「新聞作成」にし、繰り返し実施し、その資質・能力の育成を国語の学習関連づけて進めていることと、捉えている。



図5 山形大学附属小学校4年2組(2018)の学級カリキュラムの概要 (作成 中井)

5. 附属中学校の取組：各教科と総合的な学習の時間における探究型学習の取組

(1) 各教科における探究型学習のモデル提示と出前授業の実施

附属中学校では、総合的な学習の時間はもとより、各教科の特性に応じ「探究型学習」に取り組んでいる。探究のプロセスである「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現（学びの振り返り）」、さらに、発展学習と各段階における学習活動をわかりやすく整理し、「探究型学習のモデル」として提示し、出前授業の要請にも応えている。



図6 第1学年 数学「比例・反比例」～ランドルト環の仕組みを調べよう～ 探究型学習の展開 (2019)

(2) 大学と連携した総合的な学習の時間の探究型学習

写真4、写真5は附属中学校第3学年の生徒が総合的な学習の時間における「自己の研究課題」を探究していくにあたっての「図書館での調べ方」「まとめ方」等について、山形大学の教員から講義を受けている様子を表したものである。

附属中学校においては総合的な学習の時間における探究型学習を推進するため、平成29年度に大学所属のプロジェクト教員を附属中学校に配置し、カリキュラムの作成等に取り組んだ。平成30年度には、プロジェクト教員を中心に単元を開発・実施し、第3学年生徒がまとめた卒業論文について、大学教員から直接コメントを受ける卒業論文評価会を実施した。

附属中学校からは「探究学科」のある高等学校に多くの生徒が進学しており、中学校での学びが活かされていると言える。



写真4 図書館検索方法を説明する大学教員



写真5 論文の書き方を講義する大学教員

(3) 探究型学習で育む資質・能力とカリキュラム・マネジメント

附属中学校では、大学所属のプロジェクト教員と探究型学習の研究を進めながら、表1に示している“探究型学習における50の「学び方」指導項目”を作成した。大学教員による授業や大学図書館の活用では探究活動のスキルを身につけることができた。今後は、このような学び方を高めていくために、各教科の学習のカリキュラムや指導方法の改善に取り組むことを研究推進の課題としている。

総合的な学習の時間における「探究型学習」50の「学び方」指導項目一覧

課題設定	情報収集	整理・分析	まとめ・表現
<p><課題を設定する></p> <p>① 大テーマから課題を絞りこむ。</p> <p>② 目的にあった発想ツールを使う。ウエビング マンダラート オズボーン等</p> <p>③ 課題のレベルや質を吟味する。</p> <p>④ 課題設定の理由を書く。</p> <p><学習計画を立てる></p> <p>⑤ 調べる方法を選ぶ 読む 聞く 実験 体験する</p> <p>⑥ まとめの方を選ぶ。</p> <p>⑦ 学習の見通しをもつ。</p>	<p><多様な方法で情報を集める></p> <p>⑧ 情報を集める。(図書資料、事典・年鑑などの参考図書、地図・年表、新聞・雑誌、ファイル資料、電子メディア、人的情報源等)</p> <p>⑨ 複数の情報源から正確な情報を集める。</p> <p><図書館を利用する></p> <p>⑩ 学校図書館を利用する。</p> <p>⑪ 公共図書館を利用する。</p> <p>⑫ NDCを理解して図書を探す。</p> <p>⑬ コンピュータ目録で検索する。</p> <p>⑭ レファレンスサービスを利用する。</p> <p>⑮ 閉架図書や禁帯出資料を利用する。</p> <p><Internetを利用する></p> <p>⑯ 複数のキーワードで効果的に検索する。</p> <p>⑰ 著作権や肖像権に配慮し情報を集める。</p> <p><各種施設を利用する></p> <p>⑱ 目的に応じて各種施設を利用する。(博物館、資料館、美術館、行政機関、見学施設、体験施設等)</p> <p><情報を記録する></p> <p>⑲ ノートやカード・シートに記録する。</p> <p>⑳ タブレット等で写真や動画を記録する。</p> <p>㉑ 辞典・情報源を記録する。(著者、書名、出版社、発行年、発行者、URL、検索日)</p> <p>㉒ 引用と要約を区別して記録する。</p>	<p><情報を整理・分析し、評価する></p> <p>㉓ 複数の情報を比較、分類する。</p> <p>㉔ 批判的に情報を読みとる。</p> <p>㉕ 思考ツールを利用して情報を分析する。(マトリックス、ベン図、イメージマップ、座標軸、フィッシュボーン、各種チャート等)</p> <p>㉖ 目的に応じて情報を評価する。</p> <p><情報を適切に取り扱う></p> <p>㉗ 情報の取り扱い方を知る。(インターネット情報、著作権、情報モラル、個人情報保護等)</p> <p>㉘ 情報の安全性や信憑性を適切に判断する。</p> <p><目的に応じて話し合いや交流をする></p> <p>㉙ 共感的に傾聴する。</p> <p>㉚ 注意深く、正確に聞き取る。</p> <p>㉛ 質問や感想を述べる。</p> <p>㉜ コメントやアドバイスをする。</p> <p>㉝ 多様な方法で話し合いや交流をする。(対談、鼎談、バズセッション、ディベート、パネルディスカッション等。ペア、4人G、班、学級、学年での話し合い、情報交換、打ち合わせ、協議、会議等)</p> <p>㉞ 学び合う仲間として互いを尊重し、謙虚かつ積極的に話し合う。</p>	<p><学習の成果をまとめる></p> <p>㉟ 目的や場に応じた方法でまとめる。</p> <p>㊱ 調べたことや事実と、自分の意見を区別する。</p> <p>㊲ 課題解決までの経過を記録する。</p> <p>㊳ 資料リストを作成する。</p> <p>㊴ PCの文書作成ソフトで文章を入力する。</p> <p>㊵ ソフトウェアを利用して、表やグラフ、画像の入った文書を作成する。</p> <p>㊶ プレゼンソフトを用いてスライドを作成する。</p> <p>㊷ コンピュータ周辺機器の機能や特徴を理解して活用する。</p> <p>㊸ 引用する場合は「」を付けて出典を明らかにする。</p> <p><学習の成果を発表する></p> <p>㊹ 目的や場に応じた発表の方法で発表する。(口頭、展示・掲示、レポート、ポスター、実演、タブレット、電子黒板、コンピュータ等)</p> <p>㊺ わかりやすく伝えるための工夫をする。(内容の構成・展開、色づかい、図表・グラフ・写真、姿勢、発声、視線等)</p> <p>㊻ 情報発信による社会への影響を考え、責任をもって行動する。</p> <p><学習の過程と結果を評価する></p> <p>㊼ 課題設定や学習計画を評価する。</p> <p>㊽ 成果や過程を基に、改善の方法を考える。</p> <p>㊾ 発表内容や方法を評価する。</p> <p>㊿ 課題の解決内容を評価し、さらなる課題につなげる。</p>

表1 総合的な学習の時間における「探究型学習」50の「学び方」指導項目一覧

*この一覧は「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」(2018年全国学校図書館研究大会)と「情報活用能力観点別到達目標一覧」(みやぎの情報活用育成サイト 宮城県総合教育センター)を参考に、山形県が推進する「探究型学習」のプロセスに応じて作成したものを一部要約してまとめたものです。

6. 附属特別支援学校の取組

～特別支援学校における探究型学習（主体的・対話的で深い学び）とカリキュラム・マネジメント～

(1) 授業改善からカリキュラム・マネジメントへ

写真6は、2019年度特別支援学校「授業づくり研修会」において、授業公開した各教室の前に掲示された授業の見どころである。ポインントは「授業改善の“before” & “after”」である。

附属特別支援学校では、主体的・対話的で深い学びを踏まえた授業改善についても、これまでの授業とどのように変わったのかを明確にした「授業改善の“before” & “after”」を研究の成果として発表した(2018)。これは、山形大学の共同研究者とともに考え、実践したものであり、授業改善の比較は、教育課程全体(授業計画・指導内容・指導方法・学習評価)や個別の指導計画も見直す結果となった。今後も、カリキュラム・マネジメントの視点に基づいて授業改善に取り組んでいきたいと考えている。



写真6 授業づくり研修会で教室に掲示された授業の見どころ

